

**内田清杯東北小学生女子ソフトボール大会で初優勝  
涌津スポーツ少年団が東北の頂点に輝く**

第13回内田清杯東北小学生女子ソフトボール大会は9月13、14の両日、青森県で開かれ、涌津スポーツ少年団ナインが初優勝を収めました。

同チームは、8月の県大会で代表権を勝ち取り東北大会に出場。6年生にとって最後になる今大会で、見事に有終の美を飾りました。

10月10日には、チームを代表して6年の千葉梨々花主将、菅原菜々美さん、千葉里緒菜さんが、勝部修市長に優勝を報告。千葉主将は「チームは声も出て盛り上がった。積極的に次の塁を狙えたところが良かった」とうれしそうでした。



**壮大なスケールで再現する戦国時代の軍議  
第14回唐梅館絵巻に県内外から1万4,000人**

葛西氏の重臣・千葉一族の壮大な軍議を再現した「第14回唐梅館絵巻」は9月28日、唐梅館総合公園などで行われ、訪れた11,000人を戦国時代へといざないました。

絵巻は唐梅館（長坂城）を居城とした千葉一族が天正18（1590）年、豊臣秀吉が下した小田原参陣の命に従うか否かを決した場面を再現したもの。総大将を務めた俳優の寛利夫さんが、豊臣軍との対決の口上を読み上げ、武将ら約300人が氣勢を上げると、会場の熱気は最高潮に達しました。

今年から、長坂商店街で前夜祭を開催。2日間で1万4,000人が訪れ、再現された戦国絵巻に魅了されました。

**人と人、心と心を合唱でつないだ25年  
東日本合唱祭が25回の節目迎える**

「第25回東日本合唱祭」は10月11日、一関文化センターで開かれ、合唱ファン約800人が25回の節目を祝い、歌声を通じた交流を楽しみました。

今年は一関市民合唱団を含む6団体が参加。このうち、世界の合唱コンクールで優勝経験がある「harmonia ensemble」は、ホール全体に広がった団員がさまざまな発声技法で「kondalilla」を合唱。同団体の世界観に会場は魅了されました。

市内で合唱に取り組んでいる横地裕子さん（67）は「どの団体も素晴らしい歌声でした。年々、合唱祭のレベルが高くなっています。来年も楽しみです」と話していました。



**自分の限界と可能性に挑む  
第6回一関地方小学校陸上競技大会**

第6回一関地方小学校陸上競技大会は10月8日、一関運動公園陸上競技場で開かれ、一関市と平泉町の小学校36校の代表選手による熱戦が繰り広げられました。

各校から集まった選手や応援団は約2,000人。選手は、それぞれの競技に挑み、練習の成果を発揮。応援する児童らは、かけ声を合わせて懸命に代表選手を応援しました。

6年男子100メートルに出場した鈴木悠真くん（東山小）は「練習の成果は発揮できましたが、目標のタイムに届かなくて残念。次のリレーも頑張りたい」と意気込んでいました。大会では新記録とタイ記録がそれぞれ3種目誕生しました。

**アジア・全日本マスターズ陸上選手権大会  
87歳のアスリート・鈴木さんが輝く準優勝**

「第18回アジア・第35回全日本マスターズ陸上選手権大会」は9月22日、北上市の北上総合運動公園で行われました。男子100メートル85歳以上の部に出場した大東町大原の鈴木春雄さん（87）が17秒49で、第2位に入賞しました。

鈴木さんは、県内の選手で最高齢。30年前に開かれた第1回大会に出場した経験もあります。準優勝の結果に「2位という結果は悔しいが、久しぶりに走れて満足」と笑顔で話していました。

大会は、中高年者の健康増進などを目的に開催。アジア各国から約2800人が参加しました。103歳の日本人選手も出場するなど往年のアスリートたちが健脚を競いました。



㊦男子100メートル85歳以上の部に出場し、力強い走りゴールを目指す鈴木さん／㊦第2位の賞状を笑顔で受け取る鈴木さん



**田園風景をバックに健脚競う  
過去最多の参加者が秋の一関路を走り抜ける**

第33回一関国際ハーフマラソン大会は9月28日、市総合体育館を発着点に行われ、秋たけなわの一関路を2,410人が走り抜けました。

今大会の参加者は過去最多を記録。招待選手9人を含んだ参加者は、ハーフの部、5\*<sub>10</sub>の部、10\*<sub>10</sub>の部の3部門で健脚を競いました。福島県須賀川市の鈴木孝太さん（18）は「職場の先輩と参加しました。沿道の人たちの声援に勇気づけられました」とにっこり。また、鹿児島県鹿児島市の福留剛さん（44）は「風景がとてもよく、走りやすいコース。また参加したい」と汗をぬぐっていました。



**がん患者とがんと闘う勇気や生きる感動分かち合う  
リレー・フォー・ライフ・ジャパン2014いわて**

「リレー・フォー・ライフジャパン2014いわて」は9月20、21の両日、一関遊水地記念緑地公園で行われ、がん患者や支援者ら1,500人ががん患者のがん克服を願いました。

「リレー・フォー・ライフ」(RFL)は、がん患者が24時間と闘っていることをたえ、参加者が夜通し歩き続けることでがん患者に勇気や希望を届けるチャリティーイベント。世界20カ国、日本では43カ所で開催されています。

福島県から参加した高橋厚子さん（52）は「RFLに毎年参加しています。がん患者を応援する願いがバトンになって、リレーでたくさんの人につながってほしい」と話してくれました。



**私たちの未来に緑いっぱい  
第7回いわての森林の感謝祭**

「第7回いわての森林の感謝祭」は9月20日に陸前高田市矢作町の市有林で開かれ、参加した興田小学校（皆上聖一校長、児童132人）の「興田自然愛護少年団」と東山小学校（千田智明校長、児童304人）の「東山森林愛護少年団」など約400人がコナラの苗木600本を植樹しました。

開会式の「緑の誓い」では、両少年団の児童が「私たちの未来へつなげるため、緑豊かな『ふるさと岩手』を築き育てていきます」と宣誓し、勝部修一関市長らと共に植樹をしました。興田小5年の伊東明香さんは「緑がたくさんあるとうれしい。大人になったら絶対また見に来ます」と話してくれました。